

平成30年度 おすすめ人権教育・啓発用DVDの紹介

あした咲く (36分) 企画 兵庫県

会社員の妹・茜と専業主婦の姉・翠。それぞれの立場ゆえの悩みや葛藤を抱えています。姉妹での対立や父との対話、地域の人々とのふれあいを通して、別の視点や価値観に気づきます。自分の生き方を選択し、全ての人が「自分の花」を咲かせることのできる社会をめざすきっかけとなる作品です。



こどもぼうはん 子供防犯スクール (25分)

コミュニケーションがとれる様々なアプリは、子どもたちにとっても必要不可欠な存在となっています。その一方で、便利なはずのツールがいじめなどの犯罪の芽となっているのも事実です。ネットやSNSにまつわるトラブルから子どもたちを守る方法をわかりやすく解説されています。



しょうがいしゃ こま 障害者は困っています！ (22分)

「障害者差別解消法」に伴う「合理的配慮」が、日常生活の中に当たり前のこととして浸透し、自然にお互いを支え合うことができるようになって初めて、障害者も健常者も共に暮らせる社会が実現します。合理的配慮の視点から個々に応じた対応について描かれています。



じんけんけいはつ きぎょう ちから 人権啓発は企業にどんな力をもたらすのか (25分)

企業は利潤追求という価値観だけでなく、社会にとって責任ある存在であるという立場が求められています。そこで、企業に働く人が人権の視点を取り入れて仕事に関わっていくことが企業にどんな力をもたらすかということを描いたドラマ形式で事例をとりあげながら考える作品です。



じょうほう みんなの情報モラル (21分)

「メッセージの誤送信」「知らない人とのやりとり」「情報の拡散」の三つのアニメーションドラマで構成されています。SNSに潜むリスクについてわかりやすく学ぶことができる作品です。



むら なかま むしむし村の仲間たち (13分)

外見や能力が異なるむしむし村の昆虫達。時には、それぞれの違いが原因で相手を傷つけたり、自分なんてだめなんだと悩んだりします。大切なのはお互いを認め、相手の気持ちを思いやること。そして仲間と助け合っていくこと。そんなことを楽しく学んでいけるアニメーションです。

